

地域と協同の 研究センターNEWS

2022年10月25日発行

218号

「協同組合のアイデンティティ」(らしさ)をみんなで考えませんか！第一回公開セミナー

ICAマンチェスター大会(1995年)で採択された「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」について、ICAソウル大会(2021年)を契機に、新しい時代に向けて世界的な協議がすすめられています。地域と協同の研究センターでも、このことをぜひ考えたいと、2022年9月17日(土)に第一回公開セミナーを開催しました。セミナーでは「協同組合のアイデンティティ」がどういう話し合いで決まったか、コープあいちの八木憲一郎氏から当時のことをお話しいただき、何が今話題になっているかをJCA(日本協同組合連携機構)の前田健喜氏にお話しいただきました。そして、ワークショップで考え合い共有しました。その一部をご紹介します。(文責:事務局 伊藤小友美・大島三津夫)

「協同組合らしさ」を考える —「生協らしさ」を知り 学んで—

元コープあいち副理事長 八木憲一郎

「協同組合のアイデンティティ」を「協同組合らしさ」と言えば、議論にもなるのではないかと思います。私が学び体験し、取り組んできたことを中心に、その「協同組合らしさ」を考えてみます。

私は中学・高校・大学を1960年代に過ごし、「日本経済の成長期」を体験しました。1964年開催の東京オリンピックは、私が高校3年生の時でした。近所のお宅で、カラーテレビを見せてもらい、声援を送りました。このころにスーパーマーケット(チェーンストア)ができ、みんなが「豊かさ」をめざしていたように思います。同時に成長のひずみがくらしに表れ始め、四日市ぜんそく、水俣病、イタイイタイ病などの「公害」が社会問題になり、不安と被害者の怒りが広がりました。70年代に入ると、高度経済成長の弊害(ツケ)が見えてきます。地域で、生活防衛のための共同購入活動が生まれ、生協づくり(60年代後半～)があり、私もその仲間に入れてもらいました。私は、学生時代を関西で過ごしました。そこで、たまたま食堂の入口で大学生協の価格審議会委員募集というチラシを見つけて応募し、委員になりました。そこでの議題は、「素うどんとセット注文が多い55円定食は炭水化物過剰摂取の原因であり、栄養バランスを考えて価格改定したい」というものでした。理事会の価格改定の提案に対し、「腹いっぱいはいち実な願い」ということで反対意見がまとまった。二か月ほどすると理事会は審議会の意見を受け止め、「価格は据え置いて栄養改善をする」と値上げ取り止めの結論を出してくれました。生協って、組合員の意見を聞いてくれるということが新鮮な驚きでした。生協と組合員、生協と地域、組合員と職員は、互いに距離が近く、そこに温かさがあると感じました。組合員に対してまじめに向き合う正直な生協は、地域の一員であり、職員と組合員との信頼関係も深い。生協に寄せられる強い安心感は、当たり前のことであり、生協らしさそのものだと思えました。

このような体験から、私は東三河地域での生協づくりに参加しました。60年代後半、大学生協による地域での生協づくり・支援活動がありました。そのような時期に、生協を知らない若者3人による生協づくり(1971年～)が始まり、地域をまわりました。

【2ページにつづく】

研究センター10月の活動

4日(火) 名城大学人間学部「ボランティア入門」③	20日(木) 組合員意識調査セミナー準備研究会
6日(木) 金城学院大学「協同組合論」③	23日(日) 第5回難民食料支援学び語り合う会
7日(金) 三重地域懇談会三重のついで	25日(火) 名城大学人間学部「ボランティア入門」⑥
10日(月) 第5回常任理事会	26日(水) 愛知の協同組合協同連絡会
11日(火) 名城大学人間学部「ボランティア入門」④	27日(木) 金城学院大学「協同組合論」⑤
13日(木) 第1回組合員理事セミナー 金城学院大学「協同組合論」④	28日(金) 研究フォーラム環境世話人会
15日(土) 第5回協同の未来塾	29日(土) 第4回共同購入事業マイスターコース
18日(火) 三河地域懇談会野田味噌見学会 名城大学人間学部「ボランティア入門」⑤	

※ 各行事は新型コロナウイルス感染対策をとって実施しています。

目次

「協同組合のアイデンティティ」(らしさ)をみんなで考えませんか！第一回公開セミナー	1	ウクライナ等避難民のみなさんの住居環境とホスト社会の担う役割について	5
三河地域懇談会の活動「地震イツモノート」学習会	4	情報クリップ	6
		書籍紹介	8

【1ページからつづく】

西三河地域にある、一番近い職域生協を訪問し「生協のつくり方」について教えていただきました。その時いただいたのが「生協法と模範定款例」でした。「生協とはこういう組織だ」ということに初めて接し、強い印象を持ちました。この後、愛知県生協連を訪問し、めいきん生協を訪問して、生協のいろはを教してもらいました。生協法や模範定款例が、文字に書かれた「生協のアイデンティティ（生協らしさ）」に触れた初めての体験だったかもしれないと思います。そして、1974年に東三河生協が設立され、1980年8月ICAモスクワ大会でのレイドロウ報告「西暦2000年における協同組合」に出会いました。生協ができてまだ間もない私たちにとってレイドロウ報告にある「協同組合の3つの危機」はショッキングなものでした。また、世界（地球）が抱える諸問題、協同組合のあり方・求められるものと問題点、将来の選択（4つの優先分野）が報告されていました。ヨーロッパを、ロッチデールのイギリスを協同組合の先進地と見ていました。そのヨーロッパの生協、とりわけイギリスの生協が衰退し、展望が語られず、悲観的なことが書かれていて、どういうことだろうと思いました。

70年代に学び体験した「生協らしさ（生協のアイデンティティ）」に、巾と深み、そして未来を見る目を持って、「今・未来を考え、議論する」ことが必要だと感じました。第29回ICAストックホルム大会（1988年）には、東海の生協からも何人かがオブザーバーとして参加しました。その大会で、マルコス会長から「協同組合の基本的価値」の報告（提案）がありました。特に日本の生協（班）から学び「参加・民主主義・誠実・他人への配慮」が提案され、これを受けて第30回ICA東京大会（1992年）におけるバーク報告「変化する世界における協同組合の価値」、そして第31回ICAマンチェスター大会（1995年）「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」というかたちで結実しました。そして、日本生協連総会（1997年）で「日本の生協の21世紀理念とビジョン」が採択されました。これらの経過を踏まえた議論が、今大事になっているのではないかと思います。

私たちは、これから経験する未来と、これまで経験してきた過去の二つの軸を見通して、「現在」を考え、新しい協同組合運動を切り拓く時を迎えています。だから今、新しい協同組合運動の価値について、大いに議論する時だと思っています。

「協同組合のアイデンティティについて」

日本協同組合連携機構（JCA）協同組合連携2部長 前田健喜

1. 「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」について

1) 「協同組合のアイデンティティ」の変遷

1844年にロッチデール公正先駆者組合が設立され、その運営指針がロッチデール原則となり、ICAが1895年に設立され、1937年のICAパリ大会で、ロッチデール原則をもとに、初めてICAとして協同組合原則を決めました。1966年のICAウィーン大会で原則を改定し、1995年のICAマンチェスター大会で7つの原則となりました。併せて定義と価値が加わり、原則は価値を実践に移すための指針として位置づけられました。そして、その後の26年間の環境変化を踏まえ、2021年のICAソウル大会を起点に、アイデンティティに関する協議が始まりました。

2) 協同組合のアイデンティティに関するICA声明（1995）

●定義

「協同組合は、人びとの自治的な組織であり、自発的に手を結んだ人々が、共同で所有し、民主的に管理する事業体をつづじて、共通の経済的、社会的、文化的ニーズと願いをかなえることを目的とする。」

以下の3点がポイントとなります。

- ・ 共通の経済的・社会的・文化的ニーズや願いをかなえることを目的とすること。
- ・ 事業を通じてニーズや願いをかなえること。
- ・ 事業体は、人々が皆で所有し、民主的に管理されること。

抽象的な利益を追求するのではなく、具体的な仕事や生活のニーズや願いをかなえるのが協同組合の目的で、普通の営利企業とは異なります。以上が定義で、グループワークでも中心として使っていただきます

●価値 定義の後に価値があります。協同組合は、次のような価値を大事にしています。

「協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、連帯という価値を基礎とする。協同組合の創設者たちの伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、他人への配慮という倫理的価値を信条とする。」

【運営上の価値】

「自助」は、自分たちで動き、自分たちで自分たちの運命を切り開くことを言っています。また「自己責任」も、自分たちの行動に、自分たちが責任を持つということで、この二つは「自ら動く」ことに関わる価値ではないかと思います。そして組織として「一人ひとりを尊重する」ということが、「民主主義」「平等」「公正」に表れています。協同組合から便益を「自分たちだけのものにしない」、他に広げていくということが「連帯」という価値です。

【倫理的価値】

ロッチデールができた時から、量目や品質について、「正直」に行うということがありました。またそういうことを組合員以外にも行うということで「公開」です。地域社会のなかの存在として「社会的責任」があり、他の協同組合を支援してきた伝統に基づき「他人への配慮」があります。

そしてこれら「価値」を実践していくための指針として七つの原則があります。

●原則 下記の7つの原則です。

- 第1原則 自発的で開かれた組合員制 第2原則 組合員による民主的管理
 第3原則 組合員の経済的参加 第4原則 自治と自立 第5原則 教育・研修・広報
 第6原則 協同組合間協同 第7原則 地域社会への関与

2. 協同組合のアイデンティティに関する世界的協議について

【世界的な協議の概要】

協同組合のアイデンティティを「学び理解すること」、「活かしていくこと」、「必要があれば改定すること」という3つのことが目的です。最速で、2024年ICA大会でアイデンティティの改正案が出され2025年に改定となります。

【論点となるかもしれない事項】

私見を含め、論点となりそうな事項として、以下のようなことがあります。

- ・地球環境について言及すべき（2011年ICAカンクーン総会で南北アメリカ大陸の協同組合から出されました）
- ・平和・非暴力について加えるべき（2021年ICAアジア太平洋女性フォーラムから提言）
- ・多様性・包摂性について加えるべき（アメリカの協同組合で2019年に重要性を指摘する決議）
- ・職員について言及すべき（1992年ICA東京大会でのベーク報告では記載があるものの、1995年声明では第5原則で研修の対象としての記載のみ）
- ・組合員の経済的参加は出資と分配についてのみ記載されるが、「利用」を明示すべきではないか
- ・協同組合が目指すべき社会について記載すべき

3. グループワークとグループ発表

【グループワーク】※以下のようにすすめました。

1. 協同組合の定義に照らして、あなたの属する（あるいは関係する）協同組合の組合員（たち）の
 - a. 「協同組合らしい」とあなたが思うエピソード（行動、発言、態度など）
 - b. 「協同組合らしくない」とあなたが思うエピソード（行動、発言、態度など）
 を挙げ、なぜそう思うか、協同組合の定義に照らして、グループの人たちに説明してください。
2. 出された「協同組合らしい」エピソード、「協同組合らしくない」エピソードのなかから、それぞれ一つを選び、a・bについてアイデアを出し合ってください。
 - a. 「協同組合らしい」エピソードを増やしていくためにはどうしたらよいか
 - b. 「協同組合らしくない」エピソードを減らしていくためにはどうしたらよいか、

【グループ発表】※各グループからワークを発表しました。一部を紹介します。

- A：協同組合の定義というのは、人によって受け止め方も違い、話して初めてわかる。お互いに尊重し合うこと、人がつながることが協同組合らしい。こういうことが世の中にも広がってきた。
- B：「協同組合らしい」＝組合員同士のたすけあいがいろいろな場面で生まれている。
 「協同組合らしくない」＝組合員がお客さんになっている。
 「どのように変えていったらいいのかわかるか」＝一人ひとりの組合員のことをもっと知ることではないか。
- C：「協同組合らしい」＝組合員自ら事業・運営に関わってすすめていくということ。
 「協同組合らしくない」＝職員同士が話す機会が少なく、コスト優先の運営になっていないか。
- D：「協同組合らしい」＝「商品を学ぶ」という姿勢はうれしい。この生産者を生協が選んでいる理由がもっと伝わるようにすればいい。
 「協同組合らしくない」＝生産者にとって値段ありきの交渉から始まるのはとても厳しい。
- E：「協同組合らしい」＝オイルショックの時に地域生協では足りない商品について分け合った。
 「協同組合らしくない」＝地域生協で、組合員の出資配当をもっと上げろという組合員がいる。
- F：「協同組合らしい」＝多文化共生の活動で、より多くの人に声をかけ、参加型の形をつくる。
 いろいろな人と仲間になっていくということが大事だと思います。
- G：「協同組合らしい」＝安くはない商品を購入し続ける。それは学習会や見学会で生産者の顔が浮かぶという人が多いから。今後そのような機会が増えていけばいい。

最後に、「多文化社会と協同組合を考える懇談会」のみなさんがICAソウル大会にも参加して、協同組合について学習し、ワークショップをされています。多文化という視点からどんな関心をもたれているのかの報告があり、終了しました。

（いとう こゆみ ・ おおしま みつお）

「地震イツモノート」学習会

《三河地域懇談会の活動》

あなたの命を守る第一歩は、

安全な建物の中にいることです

7 月 26 日

報告：伊藤小友美（事務局）

三河地域懇談会では、今年度も「南海トラフ地震等の災害への備え」を活動のテーマのひとつに掲げ、学び交流することを続けています。7 月 26 日には世話人会で、コープあいちらしのサポート事業部 竜石堂 智さん（一級建築施工管理技士）を講師に「地震イツモノート学習会」を開催しました。その内容をご紹介します。

「地震イツモノート」とは、地震の備えはモシモではなくイツモ。イツモの生活のなかで備える大震災の経験者 167 名の知恵と工夫が詰め込まれた「地震イツモノート」（ポプラ社発行）という書籍の名前によります。この書籍は地震イツモプロジェクトが編集、阪神・淡路大震災を経験した人たちのキモチとそれぞれの工夫をまとめたノートのようなものです。

家屋の耐震化は、命を守る上で必要不可欠です

耐震のチェックをしましょう。昭和 56 年 6 月以降に建ったものかどうかポイントです。以下のチェックリストで確認し、チェックが多かった方は、行政の窓口相談へ。

□1981 年以前に建った建物である。 □家の基礎が鉄筋コンクリート造ではない。 □家の 1 階を上から見ると複雑な形をしている。（四角形から離れた形をしている。） □1 階外壁の東西南北のうち、壁が全くない面 がある。 □和瓦など重い屋根葺材で、1 階に壁が少ない。

地方自治体によっては耐震診断を 無料で受けられたり、費用の補助を受けられたりする場合がありますので、住んでいる地方公共団体に問い合わせてみましょう。全国の相談窓口・耐震診断実施事業所一覧は、日本建築防災協会のホームページ（<http://www.kenchiku-bosai.or.jp/>）で紹介されています。

家具転倒防止 激しい揺れの中で家具は凶器となり 私たちに襲いかかります

家具転倒防止は、個人ですぐできる防災対策です。L 型金具は効果が高く、他にベルト式器具やポール式器具（つっぱり棒）。ストッパー式器具などがあります。



家具配置の工夫も大切です。特に寝室に必要で、寝る位置に家具が倒れないようにしましょう。またドアをふさがないようにすることも大切です。ガラスの飛散防止のためには、カーテンを引いてあるだけで違います。花瓶、ガラス製品などを置かないようにすることもおすすめです。でも、一番いい方法は、何もない部屋に寝ること…です。

**防災グッズ 持ち出し品なあに？クイズ**

右の画像を 60 秒で覚えるクイズに挑戦しました。

そしてまず準備したいグッズを発表しました。

竜石堂さんのお話のポイント

- ・ヘッドライトがあるとよい。両手があくことが大事。
- ・水も量が大事。一人 1 日 3L×3 日分必要。
- ・新聞紙はいろいろ使えるのであるとよい。
- 丸めて添え木にもなるし、防寒、燃料にもなり、紙食器も作れます。
- ・救急セット（常備薬、デンタルリンス 1 本）も必要。
- ・非常食は 2～3 日分、おいしいものを。ガスボンベがあるとよい。
- ・携帯ラジオ・レインコートは、被災者の声で多かったそうです。タオルも活用方法が多い。

ウェットティッシュやロープ、ガムテープ、マジックも役に立ちます。

交流の中で、「車の中に 500ml の水は 5 本くらい、シートの下に綿毛布をビニールに入れて置いてある。ガソリンもなるべく 3 分の 1 くらいになったら給油するようにしている。常に心掛けてっているとあわてないと思う。」という意見が出されました。引き続き、学び交流していきます。



ウクライナ等避難民のみなさんの住居環境とホスト社会の担う役割について

神田すみれ（地域と協同の研究センター研究員）

出入国管理庁によると、都道府県別ウクライナ避難民入国者数は、10 月 5 日現在 1,983 人となっています。東海地域は 10 月 5 日現在で愛知県に 77 人、岐阜県に 14 人、三重県に 3 人が避難しています。

この春から、愛知県内の受け入れ自治体を訪問し、避難されている方のご自宅を訪問しながら、お話を聞かせていただき、現状やニーズをお伺いしています。3～5 月頃に避難された方たちは、来日して約半年がたち緊急支援の時期から、次の時期に移行しつつあります。身元保証人のところに身を寄せていた方達の多くは、公営住宅へ転居され、就労し始めた方も多くいらっしゃいます。小学校に通う子どもたちも、3 ヶ月の初期指導の時期が終わり、通常の学校生活に移行しています。日本社会で日常的な生活が始まり、状況の変化とともに、出てくるニーズや課題も変化しています。

一方で、公営住宅に移り半年近くが経過した後も、給湯器がない、洗濯機がないため、毎日衣服を手洗いしているというかたもいらっしゃり、寒い季節が始まる前に、対応が必要だと感じています。

ウクライナの方たちは、名古屋市や他のいくつかの自治体は、期間を限定して、市営住宅に無償で入居できる措置がとられました。しかし、公営住宅は全国的にも風呂釜や給湯器が設置されていないところが多く、名古屋市の場合は、入居時に限定された業者から定型の風呂釜を購入、またはレンタルするという仕組みになっています（購入する場合は 23 万円）。経済的に不安定な状況にある人が入居する可能性が高い公営住宅で、人間らしい生活を営む上で必要と考えられるお風呂、お湯が出る環境が整っていないこと、入居者負担で設置することになっている制度は、大きな問題であると考え、関係者に相談、改善をお願いしています。

またウクライナの方たちには公営住宅が無償で提供されていますが、アフガニスタンやミャンマー等、他の国から避難されている方たちへは、このような措置はありません。来日 1 年が経過しても就労の目処が立っていないアフガニスタンの方たちにとっては、大きな負担となっています。そしてほとんどのご家族に、生後数ヶ月～小学生の小さなお子さんがいます。

住居環境が整っていることは、人間らしい生活を営む上で最低限の条件です。爆撃から逃れ、空襲警報を恐れ、命を狙われて、数週間ごとに寝に帰る場所を移動する生活。女性の就労は許されないと、出勤途中車から降ろされ運転手は銃で殴られ、小学生のお子さんは学校に通うことを禁じられる生活から、命からがら逃げてこられたウクライナやアフガニスタンの方たちが、安心してこの地域で望む人生を歩むことができる最初の基盤を整えることは、私たちホスト社会が担うべき役割です。そして、同じように逃れてこられた全ての人が、人間らしい生活を営むことができるよう、生活基盤を整えることは、ホスト社会が担うべき役割であり、難民条約批准国として、それが当然の役割であるという認識を広めるべく発信していきたいです。皆様のご寄付、就労機会の提供、発信等、それぞれができることを役割として担うことで、地域に暮らす難民の人たちの暮らしが少しずつ改善されていきます。全ての人が安心してその人の望む人生を生きることができる社会に向けて、一緒に役割を担っていきましょう。

（かんだ すみれ）

情報クリップ

co・opnavi 2022. 10 No. 845

高齢者のくらしを支える買い物支援

日本生活協同組合連合会 2022 年 10 月 A 4 判 36 頁 367 円（消費税込）

<コープのある風景 いわて生協>

いわて生協「健康づくり教室」 保障事業部長 三上貢史さん

<特集 高齢者のくらしを支える買い物支援>

高齢者が抱える買い物困難の問題の解決を図る

「コープふれあい便」

コープあいち

行政と協定を結び他団体と連携しえ取り組む地域見守り活動

ユーコープ

デイサービスセンターを拠点にした高齢者向け

「お買い物サロン」を開催

コープデリにいがた

<今日も笑顔のコープさん 生協の仲間のお仕事拝見>

おおさかパルコープ 石田湖都さん

<想いをかたちに コープ商品>

CO・OPお鍋であたためるだけ海鮮入り寄せ鍋うどん入り

<生協大好きママコブ山さんの 教えて！CO・OP商品>

CO・OP水・油いらずパリッと羽根つきの餃子

<ネクストブレイクCO・OP商品>

CO・OPミニワッフルドッグ（チーズ）

<組合員に支持される店づくり・売場づくり>

コープみやざき

<日本全国 宅配現場におじゃまします！>

生協ひろしま

<地域に安心を届ける生協の安全運転の推進>

コープさっぽろ

<生協の仲間づくり>

コープ共済連

<SDG s REPORT>

生活クラブ 虹と風のファーム

<With コロナ時代の組合員活動>

パルシステム茨城 栃木

<この人に聴きたい>

公共財団法人 NHK 交響楽団 パイオリニスト 木全利行さん

<ホットnavi>

パルシステム福島 / 福井県民生協

月刊 J A 2022. 10 vol. 812

第 29 回 JA 全国大会決議の実践に向けて⑧

全国農業協同組合中央会 2022 年 10 月 A 4 判 48 頁 年間予約 5,204 円（消費税込）

特集 第 29 回 JA 全国大会決議の実践に向けて⑧

—JA くらしの活動の実践による組織と地域の活性化

JA 全中 JA 改革・組織基盤対策部

くらし・高齢者対策課

JA 自己改革の進化

「やっぱ JA 筑紫があるけんよかったばい！」を

目指して「店舗運営委員会」と「支店だより」が紡ぐ、

JA ふれあい活動

—JA 筑紫（福岡県）の取り組み 新開賢也

きずな春秋 —協同のこころ—

童門冬二

展望 JA の進むべき道

食糧安全保障の強化とは —国内生産の増大

馬場利彦（JA 全中専務理事）

「国消国産」に向けて 第 7 回

GAP は農業分野の SDG s

堀内芳彦

JA グループとSDG s 第7回

施設を利用し多彩な講座 広く募り共生社会実現へ 久米千曲

協同組合の広場

（日本生協連、JF 全漁連、全森連、生活クラブ連合会）

研究者からの提言 第7回

農協改革とJA グループのバリューチェーン戦略 野口敬夫

トピック①

国民理解醸成に向けた「国消国産月間」の取り組みについて

JA 全中 広報部

海外だより [D.C. 通信] 第136回

銃規制と中絶権

菅野英志

トピック②

優れた技術で、食卓に欠かせない肉を届ける

—全国食肉学校の取り組みについて

公益社団法人 全国食肉学校

生活協同組合研究 2022. 10 VOL. 561

市民がつむぎだす平和

公益財団法人 生協総合研究所 2022 年 10 月 B5 判 80 頁 定価 550 円（消費税込）

巻頭言

非戦と共生

伊藤由理子

特集 市民がつむぎだす平和

強い軍事力が安全をつくるのか

—戦争が現実的になってしまった世界で

戦争を避ける方法を市民が考えるために—

遠藤誠治

平和構築に NGO、市民社会が果たす役割
戦争と平和のジェンダー
—市民としてできることは何か—
日本から「難民」支援を考える
積極的平和としての貧困撲滅と格差是正に向けて
—アジア生協協力基金の役割と今後の課題—
フェアトレードと民衆交易
—草の根貿易ネットワーク再考—
■国際協同組合運動史 (第 7 回)
国際協同組合同盟 (ICA) 第 4 回パリ大会 —1900 年—
鈴木 岳
■本誌特集を読んで (2022・8) 鈴木勝士・笹野武則
■新刊紹介・私の愛蔵書

篠原匡『誰も断らない』 藤田親継
堀田正彦著 オルター・トレード・ジャパン編
『人から人への交易』 三浦一浩
稲垣真美『ワインの常識』・山本博『岩波新書「ワインの常識」と非常識』 鈴木 岳
■研究所日誌
●アジア生協協力募金 2023 年度・助成金一般公募のご案内
●全国研究集会
地域における多様な「協同」の形を考える (11/5)
●公開研究集会 (オンライン)
フランスとデンマークの協同思想より学ぶ (12/8)

文化連情報 2022. 10 No. 535

「協同組合原則」と厚生連医療を考える

日本文化厚生農業協同組合連合会 2022 年 10 月 B5 判 80 頁 文化連情報編集部 03-3370-2529 * 注

農協組合長インタビュー (84)
所得安定と働き方改革で持続可能な農業を
安藤昌義
「協同組合原則」と厚生連医療を考える 東 公敏
院長インタビュー (336)
茨城全域の救命救急医療のハブ病院をめざして
河内敏行
『JA 大会決議実践スタート』広報キャンペーン企画
コロナ禍での組合員活動について
林 佳史
『厚生連オンラインカレッジ』いよいよプレ開講！
厚生連職員の皆さんの
統一研修システムとして広く活用を 和田芳行
二木教授の医療時評 (205)
プライマリケアの拡充で医療費は抑制できない、むしろ増加する —過去 20 年間の実証研究の結論—
二木 立
農福連携も見据えた
運動器の疾患予防・疼痛軽減のための対策集 (2)
運動器疾患予防・軽減プログラム 上岡洋晴
食から考える現代資本主義社会 (5)
食と農のグローバル化
その 3 アグリフードビジネスの影響力 平賀 緑
憲法と地方自治を生かそう
持続できる社会を足もとから (4)
沖縄復帰 50 年 住民の平和的生存権を問う
川妻千将

アメリカの医療政策動向 (26)
インフレ抑制法の概要とメディケア薬価交渉制度
高山一夫
変わる日本のまちづくり (28)
ケアラー支援のまちづくり
—北海道栗山町の公民連携の歩み (その 2) —
杉岡直人 ・ 畠山明子
野の風 龍神そば—人も作物も育ち続ける地域へ—
返町和直
多様な福祉レジームと海外人材 (53)
家事支援従事者を雇用する企業に対する
2 度目の行政指導 安里和晃
アフガニスタンから見た世界と日本 (29)
繰り返してはならない広島と長崎の悲劇
レシャード カレット
デンマーク & 世界の地域居住 (159)
インフォーマル資源の価値② 松岡洋子
熱帯の自然誌 (79)
民族の大移動 安間繁樹
□書籍紹介 新基本法見直しへの視点
□書籍紹介 ほんとうの多様性についての話をしよう
▼線路は続く (168)
長崎本線 西の彼方への憧れ 西出健史
▼最近見た映画 さかなのこ 菅原育子

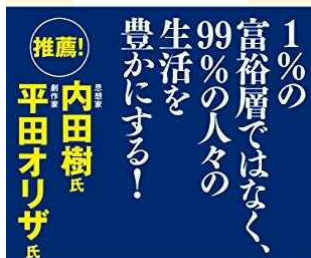
地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお問い合わせください。

書籍紹介

井貝順子会員からの書籍紹介

日本再生のための
「プランB」

医療経済学による所得倍増計画

著者 兪 炳匡
YOO Byung-Kwang

集英社新書

日本再生のための「プランB」医療経済学による所得倍増計画

著者：兪 炳匡（ユウ ヘイキョウ）

発売日：2021年3月 価格：1,012円（税込） 新書判／304ページ

井貝順子会員からの紹介1

日本は、経済指標、男女平等、報道の自由、大学ランキングなどあらゆるジャンルですでに「先進国から脱落した」と呼べる状況になっている。本書では、ITやAI等を駆使したイノベーション誘導型の政策を「プランA」と呼ぶが、その実現の可能性はほとんどゼロであることを、データを基に詳述。これに対し、著者が提唱する「プランB」は、医療・教育・芸術を融合させた新たな分野で雇用を創出し、所得を倍増させる画期的なアイデアだ。コロナ後の世界を見据え、地方移住を促し、1%の富裕層を潤わせるのではなく、残り99%の人々の生活を豊かにする具体的な方法を提示。

井貝順子会員からの紹介2

- ・プランA・・・「輸出と企業の設備投資の増加」を通じたGDP増大を目指す。ただし今このプランAの成功は、1980年代とは、「成功の中身」が、まったく異なる。
- ・プランB・・・「地方から東京への富の流出を減らすこと」と内需拡大 具体的な処方箋として、予防医療教育に関する職種・雇用を大幅に創出、「新しい予防医療教育のコーチ」には、「演劇をはじめとする人文科学」を掛け合わせているところ。（筆者が開発した）健康教育劇場の最大の特徴は、予防教育医療プログラムの参加者全員で、オリジナルの演劇を創作し、出演すること。「自分もあの人のように困ってしまうかもしれない」という他者を思いやれる想像力・共感力の育成、社会的連帯を強化するため。この共感能力が高い人こそが、国際的なコスモポリタンであり、英語能力をいくら高めても、共感能力が低い限り、背景の異なる外国人とコミュニケーションすることはできない。この視点は、ブレイディみか子さんの「他者の靴を履く」の内容に通じる。さらに、ブロック化する世界において、文化・地理的な近さ・価値観（基本的人権と民主主義）を共有する韓国・台湾らと北東アジア経済共同団体を創設・人の移動もせよとまで提言している。

地域と協同の研究センター11月の予定

- 1日（火）三河地域懇談会世話人会
- 3日（木）組員意識調査セミナー準備研究会
- 8日（火）第6回常任理事会
- 10日（木）金城学院大学「協同組合論」⑥ 岐阜地域懇談会世話人会
- 11日（金）第6回協同の未来塾
- 17日（木）金城学院大学「協同組合論」⑦
- 18日（金）JCA協同組合連携組織全国交流会議
- 24日（木）金城学院大学「協同組合論」⑧
- 25日（金）尾張地域懇談会世話人会
- 30日（水）第7期協同の未来塾修了者実践交流会

地域と協同の研究センターFacebook
下記QRコードでご覧ください。
Facebook QRコード



※企画は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止・延期・オンライン参加のみとなることがあります。参加の前にホームページ等でご確認ください。